

(別紙参照3)

タイム回数制限 ※(尾張JPスポーツ特別ルール)

- ① タイムの回数は5イニングにつき攻守合わせて2回までとし、延長戦については、1イニングにつき攻守で1回ずつとする。
 - A) 監督、コーチが投手と話すためにマウンドへ行ったとき。
 - B) 相談するために、野手が守備位置を、または、投手がマウンドを離れたとき。
 - C) バッターボックス、バッターボックスに向かう選手、塁上のランナーもしくは、ランナーコーチをベンチが呼び寄せたとき。
 - D) 守備側のタイム中に攻撃側がタイムにカウントする行為を行ったとき、又はその逆の場合。
- ③ 監督コーチがマウンドへ行ける回数
 - A) 1イニングに同一投手の元へ行ける回数は、1回とする。2回目は投手を交代しなければならない
 - B) 監督が同一イニング、同一投手、同一打者に2度マウンドへ行った場合、監督は試合から除外され、投手は、打者が打ち終わるもしくは、イニング終了で試合から除外される。
 - C) 以下の場合、マウンドへ行ったものとする
 - ・監督コーチがファウルライン付近まで来て投手にアドバイスした場合。
 - ・監督コーチが野手へアドバイスを行い、その野手と投手が話をしたなど、規則を出し抜こうとした行為が認められた場合。
 - ・投手が、ファウルラインを越えてベンチからの指示を受けた場合。
 - ・投手交代直後、プレイ前に指示を与えるためにマウンドへ行った場合。
 - D) 記載のない事項については、野球規則に従う。

【注】守備側(攻撃側)がタイムをかけているときに、攻撃側(守備側)の監督が選手を呼び指示した場合は、攻撃側(守備側監督タイム)も回数1回をカウントする。